

福祉文化通信

～well-beingへの道～

2006.1.18 vol.55



【編集委員】
大崎 二
安倍 清
長瀬 清
馬場 清
山中 清

TEL&FAX 048(878)3793 ホームページアドレス <http://www.fukushibunka.gr.jp/> メールアドレス jimukyoku@fukushibunka.gr.jp

去る11月26日 土 27日 日 にかけて 第16回日本福祉文化学会新潟大会が 長岡市 蓮平温泉 和泉屋 を会場として行われました



開会あいさつ



リレートーク

事業活動報告

の地域づくり 福祉のあり方を振り返る大会となりました。大会会場にいたる道路は、今でも災害の傷跡が残ります。まだまだ復興の途上にあることを強く心に刻みながら会場に着くと、こども実行委員の描いた心温まる絵に出迎えられ、ほっとした気分になりました。そしてまず水害・地震で亡くなられた方々のご冥福を祈り、全員で黙祷の後、実行委員長渡邊豊さんの開会挨拶、一番、瀬川会長の基調講演もかねた挨拶が続き、また、会長の 災害の問題に取り組んでいる福祉系の学会は福祉



記念シンポジウム

災害から学ぶ地域の



特別講演

被害にあつた三条市からは鍋嶋弘樹さんが、地震の被害にあつた長岡市からは本間和也さんが、そしてポランテ、アとしてどちらの被災地にも入つて活動した川瀬和敏さんが、それぞれ活動をリアルに語つてくださりました。3人が共通に話されていた、災害によつて普段見えないうちのものが目撃された、ということばは、まさに日常からの地域そして家族の絆の大切さを物語つていたように思います。

文化学会以外にない、というところを聞き、改めて本大会の意義を感じつつ、次のリレートークとなりました。このリレートークはまさに現場を大切にする福祉文化学会ならではの企画といえ、新潟の現場、被災地からの報告、と題し、豪雨の

被災にあつた三条市からは鍋嶋弘樹さんが、地震の被害にあつた長岡市からは本間和也さんが、そしてポランテ、アとしてどちらの被災地にも入つて活動した川瀬和敏さんが、それぞれ地域を歩き出す活動について、報告して下さりました。ここでも地域における日常的なつながりの重要性が語られていました。続いて本学会としては初の試みとなる、福祉文化交流分科会が実施されました。このプログラムは、若い、芸術活動、仕事、教育、など計12の分科会に分かれ、少人数で、福祉文化化、について語り合おうという

地震当初から復興への道のりについてお話をさせていただきました。時にユ、モアを交えながらのお話でしたが、復興の困難さは想像を遙かに超え、そのことばひとつひとつからその困難さひしひしと伝わってきました。その後、映画「ボクの村のトンネル」手廻り中山隆道 の上映と解説がありました。この映画は子ども向けにつくられたとはいえ、その内容は深く、トンネルを巡つて対立した村が再び絆を取り戻し、ひとつになつていく過程は、現代にも通じるものがあり、一同目黒を熱くしながら鑑賞しました。それを受けての記念シンポジウム「がんばろう新潟」では、阪神淡路大震災の被災地で活躍された石田易司さんをコメンテーターとして、新潟の現場から小山岡さんが、東京から多田千尋さんが、それぞれ地域の絆を紡ぎ出す活動について、報告して下さりました。ここでも地域における日常的なつながりの重要性が語られていました。続いて本学会としては初の試みとなる、福祉文化交流分科会が実施されました。このプログラムは、若い、芸術活動、仕事、教育、など計12の分科会に分かれ、少人数で、福祉文化化、について語り合おうという



福祉文化賞

意図のもと企画されました。参加者は皆、車座になって、自分のことばで福祉文化を語り合えたのではないかと思います。そして夜は恒例の「福祉文化大交流会」新潟のお酒をいただきながら、大がけさみこさんによる「越後昔夜話」に耳を傾け、交流を深めました。

2日目は、朝風呂や高麗神社の敷設を楽しみつつ、9時から年一回の総会。そして10時30分からは計6会場に分かれて研究発表を行いました。

そして閉会セレモニーでは、今回が第1回目となる「福祉文化実践学会賞」の授賞式が行われました。栄えある第1回目の受賞者は、新潟福祉文化を考える会。これまでの新潟県各地域での福祉文化現場セミナーの実施、そして草の根からの福祉文化理念の普及の活動が評価さ

れての受賞となりました。最後に来年度の大会開催地をさいたまにバトンが渡された後、時折雷鳴がとどろく中、オプショナル研修が行われました。旧山古志村民が生活する仮設住宅を訪問し、山古志のお母さん方が握ってくれたおむすびと様々な手作り郷土料理に舌鼓をうちました。レクリエーションも交えながら、心温まる交流

ができたと思います。こうして幕を閉じた新潟大会でしたが、随所に実行委員の方々の趣向を凝らした工夫があり、参加者一同、頭も心もホトになりながら帰途につきました。

なお大会の詳細は、来年度発行予定の「2005年度年次報告」に掲載いたしますので、そちらもご覧ください。

地域の絆の中で
風 空里 和子
新潟福祉文化賞受賞者
新潟県長岡市 長岡福祉文化センター

地域の絆の中で子供たちの安全と心身の健やかな成長を願って、諸活動を実施しているNPO法人沖縄児童文化福祉協会において、今また新たな活動の試みがなされている。遊びとおもちゃの文化講座の企画開催がある。多世代社会の子育て支援をテーマに、県下全域を隈なくめぐり、おもちゃ文化館を展開することによって、人々の意識を高め、家庭内、あるいは地域社会における人間関係をより豊かで緊密なものとし、相互に支え合い助け合える共生社会の再構築をねらいとして

いる

本学会の多田副会長、NPO法人沖縄児童文化福祉協会理事、を講師に、昨年からはじめられたこの計画は、五年間で沖縄本島北部の国頭村から国境の島とも称される最西端の与那国町まで、沖縄45市町村を渡れなく訪ね歩くという壮大なものである。

島々の多い本県で、空を飛び、海を渡っての講演の旅は、容易なことではないが、しかし、既に13の自治体を回り終えたという実績を誇れるもの。本事業は必ず達成されるものと確信する。

そして五年後に、この計画の成果が地域力と人々の心を一層強め、子育て支援の新たな礎となることを期待するものである。

本書は経済学を専門とする筆者が、経済学の視点から憲法問題について特に25条に焦点を当てて書いたものです。本書の構成は次の通りです。

序章 憲法のカナリアとしての九条と二十五条 第一章 憲法九条と二十五条の平和福祉国家の世界 第二章 大砲かバタかの選択のなかの二十五条の生誕 第三章 福祉国家の構造と戦後の日本の特質 第四章 戦後日本の企業社会と新自由主義的再編の進行 第五章 新福祉国家の平等観とジンド・エタ・チ 第六章 新たな福祉国家と発達保障の平等化

第一に、25条がGHQ連合軍総司令部による押し付けでは決してなく、第一次大戦後のドイツ・ワイマール憲法に大いに影響を受けたGHQと当時の日本の憲法研究会との合流によって誕生したものであることが明らかにされ、25条の持つ歴史的

意義が強調されています。次に戦後日本の企業社会と福祉のあり方の関係について、その歴史が第三章で述べられていますが、更に第四章では今日の新自由主義的な改革が進められている背景とそこで政府の意図が明らかにされています。そして五、六章では新しい福祉国家の方向性が提起されています。

近年、特に2005年の総選挙での自民党の歴史的な大勝以降、憲法に関する議論が盛んに行われています。その際に憲法9条に焦点が当てられることが多いですが、筆者は、憲法9条と25条は双子の関係にあるとして、憲法を生活に生かしていくには25条に謳われる「健康で文化的な生活を営む権利」の実現が重要であると強調します。そして25条を「憲法のカナリア」25条が保障されているか否かは日本が戦争国家に向かっているか否かの指標になると例えます。

憲法を暮らしに生かす平和・福祉国家構想をテーマにした講演をもとに書き下ろされた本書は、市民に向けた今日の憲法を巡る議論の理解を深めるには最適な一冊だと言えるでしょう。

憲法25条と19条の
福祉国家
かちがひ出版
2005年

福祉文化人インタビュー



山口 幸さん

高齢者総合福祉
オリンピア兵庫 館長

Q まずは、特に力を入れている活動について、紹介してください。

A 高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫を運営するとともに、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程に在学し、認知症高齢者ケア・グループ・ユニ・トケアなどに関する研究を行っています。また、社会福祉士や介護福祉士の専門学校で非常勤講師もしており、忙しい毎日です。

Q 実践、研究、教育のそれぞれで活躍するのは、何が得意ですか、お一人について、少し詳しくお話しします。

A 社会福祉法人光研会の前身は日本聖公会首座主教であり、私の曾祖父、八代援助により、1950年に設立されたオリンピア幼稚園です。残念ながら1995年の阪神淡路大震災により、全壊してしまいました。震災で傷ついた

り家を失った。たりした高齢者のために、聖年、特別養護老人ホームとして再出発しました。

Q 奇しくも大震災が新たな出発のきっかけとなつたんですね。光研会はその後のどのような事業を展開されたのでしょうか？

A 当時としては最新鋭のハイテク機器を導入した特別養護老人ホームでしたが、研究を進めて行くにつれ、従来の特養での認知症高齢者ケアに対する限界を感じるようになり、そこでグループホームを設置。さらにはグループホーム・シ、トステイ・デイサービスが一体となった、オリンピア兵庫の開設に至りました。グループホームの取り組みの影響を受けて、特養でもユニ・トケアが始まりました。また、昨年の5月には保育所もオープンしています。

Q いま距離を置かれているオリンピア兵庫では、どのような実践をされているのですか？

A 高齢になっても、認知症になっても、今まで通りに誇りを持つた暮らしを安心して続けるお手伝いをさせて頂くことを理念としています。小規模で家庭的な環境の中で、適切なケアを受けながら生活をするには、こんなに生き生きと

日々を過ごすことが出来るのだなあと、毎日が驚きの連続です。

Q そのような価値をされるべき、かけがあるのでしょうか？

A これまでの活動を振り返ると、スウ、デンに1年間留学したことが大きか、たと思います。大学で高齢者福祉を勉強しながら、老人ホームやデイサービスに通い、現場でのケアを体験することができました。また、趣味の空手やコントラバスを通じて多くの友達ができ、いまでも交流が続いています。

Q 多様な経験と交流があることで、学会の今までの活動、これからの活動について、最後にひと言お願いします。

A 認知症高齢者ケアやグループホームに関する研究を、福祉文化研究に投稿したり、学会で発表したりしています。先日、新潟大会では、交流分科会において実践の報告をさせて頂きました。福祉文化、というキーワードで結ばれた、様々な分野の方々との幅広い交流が出来るのがこの学会の魅力だと思います。これからも、活動が拡大していくことを期待しています。私も微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思っています。

2005年度 日本福祉文化学会総会報告

去る11月27日、第16回日本福祉文化学会新潟大会において、2005年度総会が行われました。以下にその内容について報告いたします。

なお総会に先立ち行われた理事会の場で、今回の理事会が総会前であるにもかかわらず新理事のみで行われたことに疑問が出され、理事の任期と責任体制および事業計画・予算との関係等について、新理事会の中で、今後、かりと議論をしていくことを確認しました。この確認について報告された上で、本総会が行われました。

開催事項

第1号議案…第3期評議員選挙結果および新役員体制について、原案通り承認。詳細は福祉文化通信第53号参照。

第2号議案…2004年度事業報告の承認について、原案通り承認。詳細は2004年度年次報告参照。

第3号議案…2004年度収支決算書の承認について、原案通り承認。詳細は2004年度年次報告参照。

第4号議案…2005年度上半期事業報

告について、原案通り承認。

第5号議案…2005年度上半期収支決算報告について、原案通り承認。

第6号議案…日本福祉文化学会倫理規定の承認について、一部文章表記については理事会にて加筆訂正することを求めて原案通り承認。なお倫理委員については、下記参照。

第7号議案…2006年度事業計画案の承認について及び第8号議案…2006年度収支予算案の承認について、(05年度については、新しい理事体制のもとで①地方プロジェクトの活動の支援②ホムベジの活用を含めた広報活動の充実③東北アジアを中心とした国際交流のあり方の検討等を重点的に行うことが確認されたうえで、原案通り承認。

第9号議案…2006年度第17回大会さいたま大会について、浦和大学埼玉東さいたま市にて行う。

設置事項

・倫理委員会
研究は倫理委員会、研究委員会、企画委員会、広報委員会、各地方プロジェクト活動部。

・総会の資料等をご覧になりたい方は、事務局までご一報ください。

インフメシン

日本福祉文化学会倫理委員選出

日本福祉文化学会倫理規定に基づき、以下の5名の方々が倫理委員として選出されましたので、報告いたします。五十音順・敬称略

五十嵐 真一
梅原 健次郎
多田 千尋
月田 みづえ
永山 誠

第7回日本福祉文化学会中国・四国ブロック愛媛大会

「おせたい」と福祉文化「おせたい」は福祉文化をつなぐかけ橋

開催日時：2006年3月5日

日 10:00 17:00
受付9:30

会場：松山市総合福祉センター

1階 大会議室 外

〒790 0808 愛媛県

松山市若草町8 2

TEL 089 921 2

111

主催：日本福祉文化学会中

国・四国ブロック

共催：松山市社会福祉協議会
実施主体：第7回日本福祉文化学会中国・四国ブロック大会
実行委員会

後援：愛媛県社会福祉協議会・愛媛県社会福祉士会・愛媛県介護福祉士会・愛媛県精神保健福祉士会・松山市障害者団体連絡協議会・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・FM愛媛・愛媛新聞社・愛媛CATV

日程：10:00 10:30

主催者挨拶 オリエンテーション

10:30 12:00 基調講演

講師 天野 祐吉

氏 コラムニスト

ト・重話作家 松

山市立子規記念博

物館館長

演題 「おせたい」と

「おせたい」

かい

12:00 13:00 昼食

13:00 15:30 分科

会 4分科会

15:45 16:45 全体

会 分科会報告等

16:45 17:00 閉会

挨拶等

※10:00 17:00 泊

●今後の九州ブロックの活動●

日比野正己（九州ブロック担当理事、長崎純心大学大学院）

○ブロック活性化案

第1は九州ブロックの特徴を活かす。福祉文化のモデルとなる先進施設が多く存在するし、福祉文化を掲げる大学院（福祉文化系で博士号を授与できる）があるし、大都市から離島まで多様な地域特性と文化を有している。

第2は、無理しないで、楽しく・ゆったり・実り多くである。

第3は、毎年1回は幹事が担当して現場セミナーを開催し、学問としての「福祉文化」を探究するために「福祉文化学ゼミ」（仮）を長崎純心大学大学院と連携して開催する。

○3カ年計画

2005年度は体面づくりである。各県の幹事を次の会員にお願いした。
○大分県：雨宮洋子・総合ケアセンター学生の実理事長、○熊本県：米満淑恵・総合ケアサポートセンター天寿閣施設長、○鹿児島県：古井敦子・野の花会理事長、○長崎県：志賀俊紀・八幡会総合施設長。現在の九州ブロックの会員は40名ほどであるが、連絡はできるだけメールを活用する。事務局は私の大学院生らにお願いする予定。

次年度（2006年度）からは、幹事を中心に現場セミナーを開催し、福祉文化学ゼミ（仮）を発足させる。そして、実績をつみながら、全国大会を長崎県でいざ開催したい。

スタセシン
参加申込：参加希望の方は申込書をご請求いただき、必要事項を記入して
松山東雲女子大学 曲田研
宛宛宛て に郵送またはFAXにて
2006年2月10日 金
までにお申し込み下さい
〒790 8531 愛媛
県松山市桑原3丁目2 1
FAX 089 934 90
55
※なお、FAXおよび電話での申込はお受けできません

参加費：1 大会参加費 資料
代 / 一般・会員 2,000
0円 学生 1,000円
参加者のアテンドメント 介助
者 無料
2 昼食費 お茶付き 3
月5日 800円

※事前振込にご協力下さい
※振込手数料は、振込人様ご負担をお願い致します
※当日は、振込確認書等をご持参下さい

参加費振込先：金融機関名
等：伊予銀行 本町支店 普
通預金 口座名義：日本福
祉文化学会中国四国ブロッ
ク
愛媛大会担当 黒河英之
口座番号：1970645

問合せ先：〒790 080
8 愛媛県松山市若草町8
2
黒河英之愛媛大会事務局
TEL 089 941
7426
FAX 089 941
4408

新学会員（12月 日現在）

〈個人会員〉

・古寺 洋之 特別養護老人ホーム うちの松園
・田崎 敏男 産能大学経営学部
・佐々木由那 国際医療福祉大学大学院
・川原田美佳 NPO法人ファンタジスタ
・榎 智 財団職員（東洋大学大学院社会学研究科修了）
・平井 佳子 大阪府立女性自立支援センター
・横山麻緒枝 古備国際大学社会福祉学部

〈学生会員〉

・岩見 孝子 梅花女子大学大学院文学研究科人間福祉学専攻
・劉 光輝 ルーテル学院大学博士後期課程
・道仙 道子 岡山済生会ライフケアセンター